

## ヨハネの福音書15：1-17「イエスはまことのぶどうの木」

15:1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。 15:2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。 15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。 15:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。 15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。 15:6 けれども、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。 15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。 15:8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。 15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。 15:10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛の中にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。 15:11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。 15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。 15:13 人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。 15:14 わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行うなら、あなたがたはわたしの友です。 15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべと呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。 15:16 あなたがたがわたしを選んだものではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。 15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。

## 導入

「二階の広間」で繰り広げられたイエスと弟子たちの会話には、いくつかの問いかけがありました。それは、イエスの弟子たちからの質問でした。その内容は、もうすぐイエスがおられなくなることについてでした。

イエスは、天国でともに過ごせる未来について教え、弟子たちを勇気づけました。また、イエスの身に起こることのおかげで、弟子たちのために実現する事柄についても教えました。

先週の学びで、「慰め主」、「真理」そして「神の平安」を与えてくださるお方である聖霊の大切さを学びました。聖霊が弟子たちに与えられる前に、まずイエスが天国に行かなければなりません。

先週の学びの重要ポイントは、聖霊がイエスの代わりに与えられますが、イエスとまったく同じお方だということです。イエスは弟子たちに、イエスがいなくなることによってどのようなことが成就するかをお教えになりましたが、弟子たちがどのような生き方をすべきかについてはまだ話しておられませんでした。

ヨハネ15-17章で、この世の人生でもっとも大切なことは、「イエスにとどまること」だとイエスはおっしゃいます。

イエスにとどまることに関するイエスの教えには4つの側面があります。それらを今後4週間で、それぞれ学んでいきたいと思えます。

そのひとつめはヨハネ15：1-17です。

### 旧約聖書の背景

イエスは、ご自身をイスラエルのまことのぶどうの木とおっしゃいます。そこで、これに関する旧約聖書の背景を知ることが重要になります。

ぶどうの木は、旧約聖書の随所に登場します。まず、詩篇80：8-19を読み、次に、イザヤ書5：1-7を読みましょう。

#### 詩篇80：8-19

80:8 あなたは、エジプトから、ぶどうの木を携え出し、国々を追い出して、それを植えられました。80:9 あなたがそのために、地を切り開かれたので、ぶどうの木は深く根を張り、地にはびこりました。80:10 山々もその影におおわれ、神の杉の木もその大枝におおわれました。80:11 ぶどうの木はその枝を海にまで、若枝をあつ川にまで伸ばしました。80:12 なぜ、あなたは、石垣を破り、道を行くすべての者に、その実を摘み取らせなされるのですか。80:13 林のいのししはこれを食べい荒らし、野に群がるものも、これを食べます。80:14 万軍の神よ。どうか、帰って来てください。天から目を注ぎ、よく見てください。そして、このぶどうの木を育ててください。80:15 また、あなたの右の手が植えた苗と、ご自分のために強くされた枝とを。80:16 それは火で焼かれ、切り倒されました。彼らは、御顔のとがめによって、滅びるのです。80:17 あなたの右の手の人の上に、御手が、ご自分のため強くされた人の子の上に、御手がありますように。80:18 そうすれば、私たちはあなたを裏切りません。私たちを生かしてください。私たちは御名を呼び求めます。80:19 万軍の神、【主】よ。私たちをもとに戻し、御顔を照り輝かせてください。そうすれば、私たちは救われます。

#### イザヤ書5：1-7

5:1 「さあ、わが愛する者のためにわたしは歌おう。そのぶどう畑についてのわが愛の歌を。わが愛する者は、よく肥えた山腹に、ぶどう畑を持っていた。5:2 彼はそこを掘り起こし、石を取り除き、そこに良いぶどうを植え、その中にやぐらを立て、酒ぶねまでも掘って、甘いぶどうのなるのを待ち望んでいた。ところが、酸いぶどうができてしまった。5:3 そこで今、エルサレムの住民とユダの人よ、さあ、わたしとわがぶどう畑との間をさばけ。5:4 わがぶどう畑になすべきことで、なお、何かわたしがしなかったことがあるのか。なぜ、甘いぶどうのなるのを待ち望んだのに、酸いぶどうができたのか。5:5 さあ、今度はわたしが、あなたがたに知らせよう。わたしがわがぶどう畑に対してすることを。その垣を除いて、荒れすたれるに任せ、その石垣をくずして、踏みつけるままにする。5:6 わたしは、これを滅びるままにしておく。枝はおろされず、草は刈られず、いばらとおどろが生い茂る。わたしは雲に命じて、この上に雨を降らせない。」5:7 まことに、万軍の【主】のぶどう畑はイスラエルの家。ユダの人は、主が喜んで植えたもの。主は公正を待ち望まれたのに、見よ、流血。正義を待ち望まれたのに、見よ、泣き叫び。

これらの旧約聖書の箇所では、神の選びの民が「ぶどうの木」と表現されています。どちらも、実を結ばない不誠実な民に対し、裁きがくだされるだろうと警告します。一方、著者たちは、詩篇80：17-18とイザヤ27：2-6で、ぶどうの木が実を結ぶ未来に期待を寄せます。

ぶどうの木は、イスラエルの民の象徴でした。金のぶどうの木は、ヘロデの神殿の装飾の一部でした。「ぶどうの木」はユダヤ民族の日常生活の一部でした。ぶどうの木がどのような形である

か誰でも知っていましたし、イエスがたとえとして用いられた農業の教えは多くの人が心得たことでした。

イエスはここで、ご自身が「実を結ぶぶどうの木」として預言を成就したとおっしゃいます。

### 1. イエスは、実を結ぶまことのぶどうの木である。(1-2節)

1節で、イエスはご自身こそ実を結ぶイスラエルのまことのぶどうの木であるとおっしゃいます。つまり、他のどんな宗教も偽りであり、ご自身が唯一まことのお方だということです。

旧約聖書で神の民が実現することのできなかつたことを、すべてイエスが成就なさるので

す。イザヤ5：4で、イスラエルの民にできることはすべてなされたけれども、民は実を結ばなかつたと神は語っておられます。

一方、イエスは、実を結ぶために人がつながらなければならないのはイエスご自身だとおっしゃいます。

その直後、イエスがご自身の意志で動いておられるのではないとおっしゃいます。「父は農夫です」と言われます。

ここで「農夫」とは何かという疑問が出てきます。

「農夫」は、ぶどうの実を実らせ、ワインを作る上でもっとも重要な人物です。ぶどう畑で一生のほとんどを過ごします。それぞれのぶどうの木の状態を知り、そのニーズに合わせて懸命に手入れします。

科学技術の進歩や発展が目覚ましい現代社会でも、「農夫」の役割は変わりません。毎週ぶどうの状態を観察し、水揚げや健康状態のチェック、害虫や病気の予防、肥料の補給などの管理作業を経て、実の収穫に至ります。

イエスは、「父は農夫です」とおっしゃいました。これは、父がご自身のぶどう畑のひとつひとつの木に関心を持っておられるということです。父は、「まことのぶどうの木」につながるすべての人に目を注いでくださいます。まことのぶどうの木につながるとは、イエスとひとつになるということです。

ですから、私たちがイエスとひとつであれば、神は私たちの霊のいのちの成長に関心を寄せてくださいます。神は私たち一人一人がたくましく成長し、「実を結ぶ」ことを望まれます。

これは大きな課題であると同時に、励みにもなります。

ぶどうの木の場合、毎年剪定を行って木を掃除します。ぶどうの木には、幹と枝の分かれ目に「吸枝」と呼ばれる芽が出ます。これを放っておくと、ぶどうの木の栄養を吸い取ってしまいます。枝はたくさんあっても、葉ばかりで実がつかなくなります。

農夫は、実を多く実らせるためには吸枝の剪定が重要であることを知っています。芽が幹と枝のちょうど分かれ目に生えるので、土や葉やほこりなどがそこにたまりやすくなります。それで、剪定は清掃作業にもなるわけです。

私たちの人生における御父の働きも、農夫の仕事のようです。実をつけようとしている枝を見つけて、それを剪定されます。問題のある芽を刈り取って、私たちがさらに多くの実を結ぶようになさいます。

これは、楽しいことではありませんが、長い目で見ると私たち自身のためになることです。神はご自身のなさっていることをご存知ですが、多くの場合、私たちにはその意味がわかりません。

わたしの道はあなたがたの道より高いと主は仰せになります。

## 2. イエスの弟子たちは、実を結ぶまことのぶどうの木にとどまらなければならない。 (3-8節)

この個所で、ぶどうの木にとどまるとどうなるか、またとどまらなければどうなるかをイエスは説明なさいます。

枝は、「イエスにとどまる」すべての人です。イエスにとどまる人は誰でも実を結びます。まことのぶどうの木につながっていない枝は、実を結ぶことができません。とても単純なことです。

「実を結ぶ」習慣は、神に栄光をもたらすものです。

3節は、ぶどうの木にとどまるのは、イエスのことばを信じることから始まると語ります。

人はイエスのことばを聞いて、ぶどうの木につながります。これは、十字架についての教えも含まれます。私たちは十字架をとおしてきよめられるとイエスはおっしゃいます。

4節で、イエスは、人が実を結ぶためにはイエスにとどまることが不可欠であることを教えるため、引き続きたとえを使って語られます。イエスは、弟子たちが自力で実を結ぶことはできないとおっしゃいます。弟子たちがイエスにとどまり、イエスが彼らにとどまる必要があります。

イエスに「とどまる」とは、イエスと日々一対一のつながりを持つことです。つまり、イエスを「信頼し」、常に「祈り」、イエスのことばと導きに「従う」ことです。

イエスは5節で、イエスをとおしてであれば必ず実を結ぶが、イエスを離れては実を結ぶことはできないと改めて強調されます。その実とは何かについては、後ほど学びましょう。

6節では、イエスにとどまらなかった場合にどうなるかが記されています。その人は、役に立たない枝のように投げ捨てられて枯れます。この枝は集めて焼かれます。これは非常に厳しい言葉ですが、イエスの言葉です。

## 7節で、イエスにとどまり、実を結ぶプラス面に焦点が当てられます。

この個所はしっかり理解しておくべきです。これまでで、ぶどうの木につながり、その木にとどまるのは、イエスのことばによることを学びました。また、実を結べるのも私たちの祈りの結果だけでなく、イエスのことばのおかげであることも学びました。

7節には、祈りが応えられるためのふたつの条件が記されています。この条件は、イエスにとどまること、そしてイエスのことばが私たち信徒にとどまることです。私たちが本当にイエスにとどまり、イエスのことばが私たちにとどまっているなら、イエスが望まれることを私たちは願い求めるでしょう。

ですから、私たちはイエスのことばと聖書全体の教えに基づいて祈ります。個人的な感情や願望に従って祈りません。

8節は、イエスに「とどまる」ことと「実を結ぶ」ことは神に栄光をもたらすと語ります。

同時に、私たちが「イエスの弟子」であるしるしにもなります。ですから、まことのぶどうの木と枝の目的は、御父に栄光をもたらすことです。その実は、祈りに応えて与えられます。

ここで、イエスとそのことばにとどまって祈るなら必ず実る「実とは何か」について考えてみましょう。

イエスは、9-17節でたとえを説明し、この問いに答えてくださいます。

### 3. ぶどうの木のたとえの解き明かし (9-17節)

ぶどうの木がどのように機能し、それぞれが何を表しているかについてイエスは説明なさいます。この説明により、本物の実を实らせる神の民がどのような生き方をすべきかがわかかってきます。

ここで強調されているのは、私たちが愛をもってイエスのことばとその働きに従うことです。従順は、実を結ぶための第一歩です。

9-11節を見てみましょう。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。 15:10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。 15:11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。

この個所でイエスが言っておられるのは、父がイエスを愛されたのと同じようにイエスは私たちが愛されるということです。

ヨハネ5:20には、父はご自身のなさることをすべてイエスに示し、イエスを愛されたとあります。

ヨハネ5:20 それは、父が子を愛して、ご自分のなさることをみな、子にお示しになるからです。また、これよりもさらに大きなわざを子に示されます。それは、あなたがたが驚き怪しむためです。

イエスも同じように弟子たちを愛されました。それで、ご自身のことばと働きをもってすべてのことを弟子たちに示されました。15節を読むと、イエスは父から聞いたことをすべて弟子たちに知らせたとあります。

ヨハネ15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。

イエスは父の愛の中にとどまられました。父が示してくださったことに、愛をもって従われました。

十字架上の死にさえも従われたのです。

ですから、イエスの弟子もイエスの生き方を模範として生きなければなりません。それは、神のことばである聖書の中でイエスが示してくださったことに愛をもって従うことです。

このように従うと、「喜び」に至るとみことばは語ります。

また、イエスはすでに、イエスの教えは私たちに「自由」に導くとおっしゃいました。

ヨハネ8:31-32 そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

イエスにとどまり、イエスの教えに愛をもって従うなら、私たちは本当の自由と喜びを得ます。

12-17節は、イエスの命令の性質について教えます。

イエスに従うことは、自分自身に死に、神の民に愛情をもって仕えることだと、イエスはすでに弟子たちにお教えになりました。

関連個所をいくつか見てみましょう。

ヨハネ12：25

自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。

ヨハネ13：12-17

13:12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。 13:13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。 13:14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。 13:15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。 13:16 まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。 13:17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行うときに、あなたがたは祝福されるのです。」

イエスはここで、「しもべ」から友と言い換えることで要点をわかりやすく伝えられます。しもべは主人のしていることを知らないとイエスはおっしゃいます。しかし、イエスに従うなら私たちはイエスの「友」だとおっしゃいます。友人はお互いのことを親しく語り合います。イエスの友は、神がイエスに示されたことを何でも知っています。

イエスは、「実を結ぶ」ように、そしてその実が残るように弟子たちが選ばれたとおっしゃいます。

この個所の学びを終える前に、この実とは何かという問いに答えなければなりません。

ヒントは16節にあります。イエスは、弟子たちが実を結ぶように選ばれ任命されたとおっしゃいます。

原語では、「任命」と訳された単語は、特定の務めや職に任命されたことを意味します。この任命の内容がここでは「行って実を結び」であることから、宣教を指していると考えられます。

イエスは弟子たちの実が残ることを望まれました。つまり、ぶどうの木にとどまることです。イエスがおっしゃっているのは、ご自身が本当のぶどうの木であり、人々を任命して、他の人たちをこのぶどうの木のもとに導く役目を与えられるということです。

ですから、実を結ぶとは、たましいをイエスのもとに連れていき、彼らがイエスにとどまることです。

こういうわけで、イエスが弟子たちに与えられた最後の命令は、イエスが彼らに教えたすべてのことを教えて人々を弟子としなさいというものだったのです。

マタイ28：16-20

28:16 しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行って、イエスの指示された山に登った。28:17 そして、イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った。28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るよう、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

ガラテヤ5：22に記された聖霊の実が私たちの生き方に現れることは大切ですが、ここでヨハネが語る内容は明らかに、イエスのためにたましいを勝ち取ることです。これが、私たちの人生に神が求められる実です。

イエスに近づき、イエスのためにたましいを勝ち取る務めに用いられたと思いますか。

## 適用

この個所を個人の歩みに当てはめると、私たちがそれぞれ「霊の健康診断」を受けるという課題です。皆さんは、病院で年に一度の健康診断を受けているでしょうか。体が健全に機能しているかどうかを医者に診てもらいます。

「イエスによる霊の健康診断」も受けるのが良いでしょう。クリスチャン生活で健全に機能しているかどうかを診てもらおうのです。神の栄光のために実を結んでいるでしょうか。

言い換えると、イエスのためにたましいを勝ち取ることを求めていますか。そのためにはイエスに目を向け、イエスとのつながりを重視することです。神は、私たちが福音のメッセージを分かち合える人と出会わせてくださいます。神が私たちをそのような人のもとへ導いてくださり、その人たちと接点ができます。

10月31日には、OICで初めてのインターナショナルカフェを開催します。2階でその催しは開かれます。食べ物や音楽を提供し、クリスチャンの証や短い福音のメッセージを分かち合います。もちろん、このイベントを宣伝したり、個人的に知り合いを誘ったりするでしょう。けれども、皆さんにはイベントに集中していただきたくはありません。皆さんには、自分自身のイエスとの関係に集中していただきたいと思います。どんなにすてきなイベントであっても、イエスのためにたましいを勝ち取るのはイベントそのものではありません。イエスのためにたましいを勝ち取るのは、イエスと私たちとのつながりです。

そのつながりが精彩を放つものであれば、神は人々の心に働いてくださり、イベントに参加したいと思わせてくださるでしょう。イエスは、皆さんをこのイベントで用いて、人々をご自身のもとへ導いてくださいます。

イエスがもっとも関心を寄せておられる事は、私たちが幸せで健康で裕福で悩みのない人生を送ることではありません。私たちが実を結び、神に栄光をもたらすことにもっとも関心をお持ちです。

そのためには、イエスにとどまり、健全なクリスチャン生活を送り、みことばとその教えに従い、本物の弟子となることです。木が良ければ実が自然と実ります。私たちも霊的に健全であれば、その結果として実を結ぶでしょう。

## 果物の収穫をする人の語る実話

ある年、桃がとくに豊作でした。大きくてみずみずしい実が実りました。今までで一番の豊作と言えるほどでした。収穫中に、木から折れた枝に気づきました。その枝についた実は腐ってしわ

しわになっていました。そうってしまったのは、枝が木から離れたからです。豊かな実がなるはずだったのに、そうできなくなったのです。

キリストにとどまることをやめたクリスチャンにも同じことが言えます。良い実を実らせることはできなくなります。

クリスチャン生活の焦点をイエスに合わせましょう。イエスを愛し、イエスとともに過ごし、イエスの教えに従いましょう。神の民を愛し、この世の失われたたましいに神の愛を差し伸べましょう。福音のメッセージに心を開く人たちと接点を持てるよう、神が私たちを助けてくださいますように。